

よこさわいり
横沢入（あきる野市）
さと やま ちい い
里山の小さな生きもの



横沢入里山保全地域では、田んぼが広がるなつかしい風景が残っています。こうした里山の環境には生きものがたくさんくらしています。

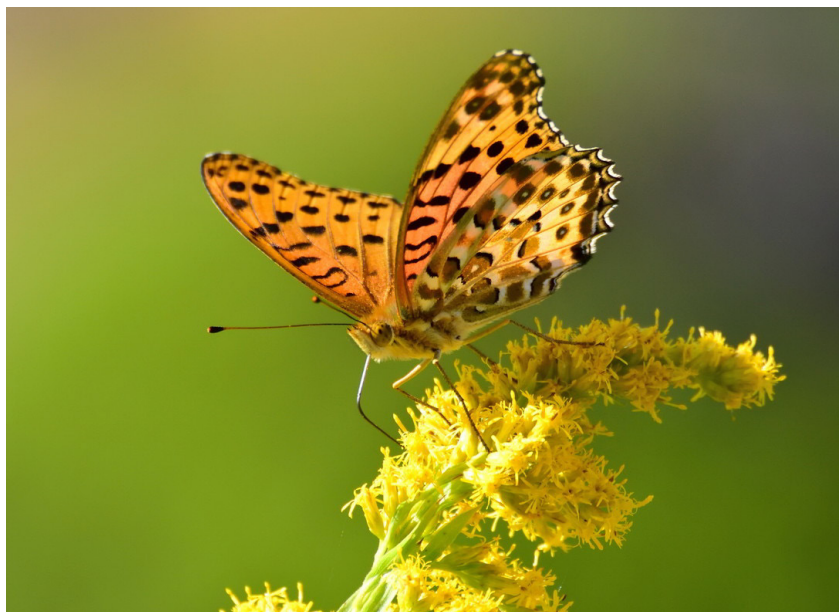
田んぼにはイナゴや、それを食べようとするカマキリがやってきます。水がたまった田んぼには、卵を産むためにトンボが集まってきます。その一角にはツリフネソウがたくさん咲いており、昆虫たちの理想的なすみかになっています。

【見られる生きもの】

コバネイナゴ	水田などでイネをかじっている姿がよく見られます。
ニホンアカガエル	おもなすみかは里山の水田周辺などで、生息を守るためにはこれらの環境を守ることが大切です。
シオカラトンボ	オスが塩を吹いたような青白い体をしていることから、シオカラと名づけられました。
ミヤマアカネ	「赤とんぼ」とよばれるトンボのひとつ。東京23区では生息環境が減少し、見かける機会が少なくなっています。
ツリフネソウ	水辺や田んぼなどの湿った環境を好む植物ですが、東京23区などでは減少しています。
ヒメクロホウジャク	成虫は空中でホバリング（空中で一点にとどまる飛び方）しながら花の蜜を吸います。
ナナホシテントウ	植物につくアブラムシを食べます。春から秋まで畑や草地などで見られ、成虫で冬を越します。
ノハラアザミ	草地などに生えます。虫などが花にふれることで、その刺激により花粉を出します。
ツマグロヒョウモン	かつては西日本で多いチョウでしたが、近年は東日本でも増え、都内の街中でもよく見られます。
オオウラギンスジヒョウモン	草原などに生息していますが、こうした場所が減ってきています。これらの環境を守っていくことが必要です。



ニホンアカガエル



ツマグロヒョウモン

水田やその周辺は生きものたちの大切なすみかになっています。こうした里山と呼ばれる環境を守るためには、手入れを続けていくことが必要です。たとえ、手入れが放棄されてしまったような場所でも、適切な努力がなされれば、再び生きものたちが戻り、豊かな環境を回復させることができます。